

速報 SEANET Convention 開催

JA3AER 荒川 泰蔵

2年前のバンコクで決定したSEANETコンベンションの大阪での開催は、予定通り去る9月14日から17日まで、大阪市天王寺区の大阪国際交流センターを会場として開催されました。海外から60名を超える参加者を迎え、総勢217名の参加者でこのコンベンションは盛り上がりました。

参加者それぞれにエピソードがあり、順次このニュースレターでも発表されるものと思いますが、取り急ぎ速報として時系列的に概要を説明して成功理に終了したことを報告し、参加者や協力者へお礼を申し上げたいと思います。



準備の過程はさておき、海外から次々到着する参加者を関西空港に出迎えることから始まりました。9月12日から14日までは組織的に出迎えてホテルまで送り届けるのですが、夜行便での到着にもかかわらず、初めての日本に胸をはずませる人が多く、皆さん比較的元気なのは出迎えた我々が驚かされました。



午後6時から始まった歓迎会は立食を共にしながら、初めて参加する人も旧知の友のように歓談していました。アイハウスラジオクラブメンバーJA3NHLが率いるアマチュアバンドによるウェスタンミュージックの演奏が始まると、

マイクの前立って歌い出す人、その前で踊りだす人がでてきて、全員が一つになって楽しんだ瞬間でした。

翌15日はバス2台に分乗しての京都観光です。二条城見学から始まり、金閣寺や平安神宮、清水寺と、途中での日本料理の昼食を含めて、お互いの親睦を更に深める、たっぷりの1日でした





16日は心配したお天気も持ち直し、各ホテルから参加者が三々五々大阪城に集結、記念撮影の後、大阪城の見学や、日本橋への買い物に出かけました



早めに大阪国際交流センターに戻った参加者は、懇談室での一服、記念局8J3SEAの運用や見学の他、ボランティアによる茶道を体験して日本文化の一端に触れました。この日も当日の晩餐会からの参加者の為に受付が始まり、その横に天王寺郵便局が臨時郵便局を出してくれました。お土産にと日本の切手を買う人、記念にと封筒に切手を貼って風景印での消印を依頼する人、また、家族や友人に手紙を差し出す人などでしばし賑わいました



ロビーでの集合写真撮影後、福娘6人が参加者を迎えて、いよいよ待望の晩餐会が始まりました。乾杯のあと食事をしながらの歓談や過去のSEANETコンベンションの上映を楽しみました。自分が写ると歓声が沸き、初めての参加者も伝統的なコンベンションの経過を知る良い機会となりました。誕生日の2人を皆で祝ったあと、SEANETコンテスト入賞者の表彰、恒例の各国毎の挨拶や余興で盛り上がりピークに達しました。そして、最後はお楽しみの抽選会で当日の幕を閉じました。



最終日の講演会ではインド、日本、東マレーシアの3人の講演者のバラエティに富んだ講演を楽しんだあと、公式会議では2年先2008年の開催地を東マレーシアのコナキタバルに決め、来年の開催地タイのランパンの風物紹介があったあと、SEANETの開催旗を大阪からランパンに引継ぎました。昼食を送別会とし、来年またランパンで、を合言葉にコンベンションは閉会しました。

コンベンション終わったあとも、折角の日本だと延泊を決めた海外からの一部の参加者は、近隣のボランティアの協力を得て、各地の観光を楽しみました。そして、次の週末までには、ほとんど人達が日本での思い出を胸に日本を後にしました。

尚、今回のコンベンションはCQ ham radioからの取材を受けました。CQ誌11月号に掲載されるであろう記事を合わせてご覧ください。



第1級アマチュア無線技士国家試験受験報告

JA3VWT 中野幸紀



転機はi-Houseラジオクラブへの参加だった。諸先輩の刺激を受け、第1級に挑戦してみることにした。思い返すと、電話級受験は40数年前、第2級は学園紛争で大学が休講中のとき。それから36年間のブランクがある。最初の受験は2004年8月、欧文モールス受信(3分間180文字)で見事に失敗。ところが、2005年12月期の試験から第2級アマチュア無線技士にはモールス試験が免除になった。モールス受信の練習時間を工学と法規の勉強に振り向け、第1級アマチュア無線技士国家試験問題集(野口幸雄著、CQ出版社)で過去問の勉強を始めた。12月の受験結果は思いもよらず、不合格。回答が(財)日本無線協会のHPに掲載されていることを人に教えていただき、自己採点してみた。

法規が125点満点で65点、合格ラインに22点足りない。予想していたより悪い。回答は4~5個の回答文から正解を選択又は正誤を選択する方式(多肢選択マーク式)なので文章を読んで不自然な回答を外していけば正答にたどり着くと考えていたのだが、正答と思って迷わず選んだ答えがみんなアウト。微妙なところで早合点してしまっている。さすが第1級の試験だと再認識してみたが、いざ疑い始めてみるとほとんどの選択肢がみな不自然に思えてくる。結局、通勤電車の中で、再度、問題集を読み返す努力を続ける。

万全とまではいかないが、30数年ぶりに少しは受験勉強したという感触とともに2006年4月期の試験に臨む。残念ながら不合格。4月期からそれまでの午前中工学、午後法規の試験順序が逆転して、午前中法規、午後工学の順となっていたのが災いしたのか。な、なんと、午後からの工学で2点足りなかった。

電気基礎、電気回路関係などの計算問題でミス。簡単な割り算、掛け算の筆算を何度やっても同じ答えにならないことを試験中に実感。??と頭はパニック。

ぼけは本人の自覚なしに進む。やばい。

このときの法規は101点で合格圏内。午前中の法規試験に脳みそを使いすぎたらしい。

2006年8月期の試験は万全の準備をして望むはずであった。ところが、8月27日の受験日1ヶ月前からそれどころではなくなっていた。フランスから25年来の友人家族が2組、あいついで東京と大阪に滞在。奈良、京都、大阪、瀬戸内海の島などを彼らと一緒に観光・滞在などしている間に気づけば26日。

問題集は片時も手放さなかったが開く時間は皆無に近かった。受験日まであと1日。わはは。幸い、最後の1日はまるまる受験勉強に費やせた。1ヶ月間まったく受験勉強できなかった危機感から前夜に4時間ほど集中。

試験当日、早朝に起きて法規をさらに1時間勉強、法規試験後の昼休みも受験場近くのドールコーヒーで工学に集中。すると、その時に見た問題がそっくりそのまま出ているのではないか。今回はややこしい計算になりそうな計算問題は見ただけでパス。そのかわり、簡単な計算問題などでうっかりミスをしないよう集中。ポケテ弱くなった脳力を無駄な計算式につぎ込まない作戦をとった。

全問回答を目標としない。ぎりぎり合格をめざす。

結果は、法規103点(82%)、工学118点(78%)で合格(70%以上)。やったー。

2006年9月16日(土)、最初の受験から2年目にしてやっと合格通知が届いた。

総括すれば、反省点は、脳力減退の無自覚、集中力持続時間減退、若い時代の成功体験だけでなめてかかっていたことなど。受験してみてよかった点は、若返ったこと。いくつになっても「夜漬け」が試験には一番よく効くことの再確認など。国家試験が安上がりな脳力維持トレーニングの場であることを発見したことも大きかったかも。次の10年は仏語観光ガイド試験(国土交通省試験)にかけてみようかなと思う今日この頃である。

JI3ZAG

大阪国際交流センター
ラジオクラブ

Roll call

Every Saturday

0900 jst

14.155MHz

JI3ZAG

大阪国際交流センター
ラジオクラブ

Home Page

[http://www.ja3.net/
ihouse/html/](http://www.ja3.net/ihouse/html/)

Monthry Meeting

2nd Friday

1800 JST

at i-House Osaka

メンバー募集中

アマチュア無線を通じて
国際交流活動を志す
方、一緒に活動しま
せんか

大阪国際交流センター・
ラジオクラブ

連絡先 ji3zag@ja3.net